

渡辺博之教授追悼号に寄せて

学 長 寺 内 一

渡辺先生がご逝去されてから半年以上が過ぎました。「これから入院します。ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いします。」という声が最後となってしまったとは夢にも思っていませんでした。体調が優れない中、直接私の携帯電話にご連絡がありました。いつもの先生の穏やかなお言葉は変わっていませんでしたが、声の様子からお身体がきつそうだったことを覚えています。

渡辺先生にお会いしたのは1997（平成10）年4月1日、私の高千穂大学で教員生活が始まった連合教授会の後の懇親会でした。初めてで緊張していたところ、「寺内先生は慶應の人見先生のお弟子さんなんですね。民法を担当している渡辺です。」と優しい言葉で話しかけていただいたことを昨日のように覚えています。

渡辺先生は体調を崩された時も、ご回復された後も、私に会うと必ず「寺内先生、身体は大丈夫？」と気にかけてくださいました。「はい。先生こそお気をつけください。」といつも返していましたが、それもできなくなっていました。2年前に学長職を拝命した時も、「大変だけど頑張ってるね。応援するから。」といつもと同じように声をかけていただきながら、先生の思いに充分応えることのできぬまま時間が過ぎ去りました。渡辺先生は、同僚である教員はもとより、学生一人ひとりにも優しい言葉でお声がけをされ、多くの学生に慕われていました。渡辺先生があの笑顔で見守ってくれていると常に思いながら、高千穂大学がさらに発展し、一人でも多くの学生が成長する手助けを私のミッションとして鋭意努力いたしますのでよろしくお願いします。

改めまして、渡辺先生のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、ご家族の方に深く追悼の意を表します。